

だんだん

主な内容

- [特集] 雪とともに生きる
～雪国の暮らしを見つめて～ …… 2-17
- 2005年を振り返る …… 18-19
- 地域の風～支所からのたより～ …… 20-21
- 学校・家庭・地域が連携し、
子どもたちを守りましょう …… 26

初掘り

12月としては記録的な積雪になりました。吹雪一転快晴の12月16日(金)、市内のあちこちで「雪掘り」が始まりました。毎年慣れているとはいえ、最初の雪掘りは緊張します。慎重に足場を固め、ひと掘りひと掘り進みます。危険を伴う重労働ですが、こんないい天気の日には仕事もはかどります。雪の厳しさ・美しさを受けとめながら、冬を乗り切りましょう。





第32回（昭和56年）十日町雪まつり 雪上カーニバルステージ「祈りの館」



降り始め（左）と積雪ピーク時（右）の風景の違い

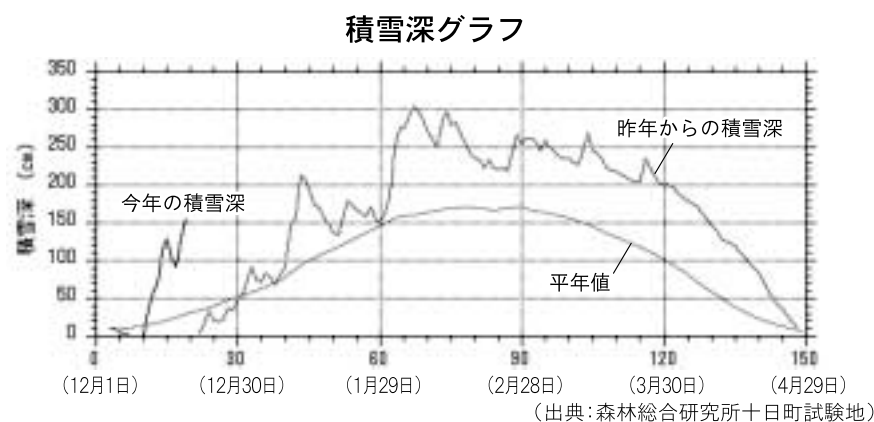
雪の建造物 世界一！

冬の日本海側最大のイベントとして56回の歴史を誇る十日町雪まつり。その雪上カーニバルの舞台となる雪上ステージは、雪だけでできています。

中でも「56豪雪」のさなか、昭和56年の第32回雪まつりで製作されたステージは、幅50m×高さ25m×奥行15mという規模で、「雪で作った世界で最も大きな建造物」として、ギネスブックに認定されました。

世界一降り積もる雪と、その雪を使った造形物で世界一。当たり前と言えど、当たり前が、そこに人が住み、人が作ったということに大きな意味があります。「どうせいつばい降るんだつたらそのまんま使おう」という心意気を感じられますね。

では、次に雪のことをまじめに研究しているところを見てください。



十日町市は全国有数の豪雪地帯として知られています。
過去80年の平均最大積雪深は239cm（森林総合研究所十日町試験地）

人口密集地として
積雪世界一！

とおかまちの雪は世界一！

／以下同じ）で、昭和20年には425cm、近年では、昭和56年に377cm、昭和59年に367cm、今年平成17年には305cmの最大積雪深を数えています。

山間部の松之山地域ではさらに多く、平成17年には420cm（松里小

学校）、昭和59年には590cm（同）の最大積雪深を記録しています。これらは、市街地を持つ人口5万人を超える規模の都市として、積雪量世界一と言われています。

特集

雪とともに生きる

雪国の暮らしを見つめて



—久しぶりの晴れ間— 今年2月の状況（上野）

いよいよ冬本番、雪の季節を迎えました。12月19日(月)には森林総合研究所十日町試験地で154cm、十日町市役所松之山支所で212cmを数えるなど、12月としては記録的な積雪となっており、12月14日(水)には十日町市雪害対策本部が設置されました。

私たちの地域は、遠い昔から雪とともにあり、人々は雪の中で暮らしてきました。家がすっぽり埋まるほどの豪雪の中で、雪を知り雪を克服する取り組みが続けられ、また雪を利用したり楽しんだりすることも同時に行われてきました。

近年では、道路除雪の技術が向上し、よほどのことがない限り交通が途絶することはなくなりました。

一方、雪国の宿命とも言える「屋根雪」「家のまわりの雪」の処理は、そこに住む一人ひとりが責任を持って行わなければならない大きな課題です。とりわけ、高齢者世帯や一人暮らしの人たちにとっては大きな負担となります。これらも、新しい技術やさまざまな雪住宅の開発により、また、地域ぐるみでの取り組みにより、少しずつですが危険な重労働から解放されつつあります。また、昔からの知恵や地の利を生かして雪とうまくつきあっている人たちもいます。

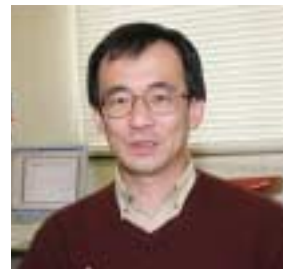
昨年10月に発生した新潟県中越大地震から2回目の冬を迎えるにあたり、雪の中で暮らすこと、雪とともに生きることの意味を、雪を資源として活用する取り組みも含め、いくつかの事例を見ながら改めて考えてみます。

生活に・災害対策に役立てる研究



融雪状況などを観測する地下室(上)
風向風速計などの観測機器(左)

現在の研究内容などについて、試験地主任・主任研究官で農学博士の村上茂樹さん(43歳)と勤続27年を数える技術専門職員の庭野昭二さん(57歳)にうかがいました。



——現在主に観測している内容と研究しているテーマは？

村上 ここには2人の研究専門の職員と1人の技術専門職員がいます。観測は、気温・湿度・降水量・日照時間・風速などの基本的な気象観測のほか、降雪量・積雪深・雪重量・融雪量など雪に関する観測を多く行っています。研究は、主に雪崩の発生メカニズムと森林の水源かん養機能について行っています。

——どんなことに役立つんですか？

村上 たとえば、森林の水源かん養機能では、降った雨(雪)のうちのどれくらいが川に流れてどのくらいが蒸発していくのかというメカニズムを、森林の形態ごとに調べていくことで、人工林整備の方向を見い出そうとしています。つまり、「どういう森林にしたなら長くゆつくり雪解けが進み、融雪災害を未然に防ぐこと



——これまでで印象深いことは？

庭野 私は主に毎日の観測業務と実験機器の試作品製作などを行っています。いろいろなことがありましたね。実験林だということがわからず、狩猟の人たちが入ってきて往生しました。また、スノーモービルで乗り込まれてその年の観測がパーになったこともあります。最近はそのようなことはなくなりましたが、今はカラスとの闘いに明け暮れています(笑)。観測機器に止まって誤差が出ないように、それぞれカラス除けの針金を付けています。ときには「おれの縄張りに入るな!」とばかり、頭上から攻撃を受けるこ

なるほど、とても意義深い観測・研究をしているところだということがよく分かりました。特に、「融雪予報」が十日町試験地の成果として早く実現することを期待したいですね。さて、次は「重く手ごわい雪」とのつきあいを、住宅の面から見ても

庭野 メーカの人たちと共同で観測機器の試作品を作り、それが製品化されたときなどはうれしいですね。特許も2件とれました。——一口に言って十日町の雪はどんな雪でしょう？

村上 「重く手ごわい雪」と言えるでしょう(笑)。1㎡当たり平均300kgもある雪が人の背丈以上積もるんですから、人力で対処できる範囲を超えています。同じ雪国でも、雪が重いのか軽いのか・多いか少ないかの差は大きいんです。それでもここに人がたくさん住み着いたのは、米をはじめいい食料がいっぱいとれたからでしょう。お金最優先の現代とは違う価値観が、大きく働いているんじゃないでしょうか。

庭野 メーカの人たちと共同で観測機器の試作品を作り、それが製品化されたときなどはうれしいですね。特許も2件とれました。

とがあります。人間より始末が悪いですね(笑)。



雪を知る 森林総合研究所十日町試験地のしごと



何かわかるかな？

左上の写真は何でしょう？不ぞろい棒を立てて何してんではないかね。けもの除けの役には立たないようだし、どう見ても物干しザオにしか見えませんが。

実はこれは「積雪実大グラフ」といって、毎年の最大積雪深を実物大に示した野外グラフなんです。そしてここは標高200mに位置する独立行政法人森林総合研究所十日町試験地。市立十日町小学校のすぐ隣です。

ポールの一番奥が明治21年で一番手前が平成17年(305cm)のもの。ポールにつかまっている人はこのグラフを作った技術専門職員の庭野昭二さん。つかまっているポールは昭和56年の積雪深(377cm)を表したものです。

こうしてみると、単に数字で表すだけではピンとこない積雪の高さがよくわかりますね。ちなみに、ポールの材質は：やっぱり物干しザオだそうです。

数少ない

雪の専門研究機関

森林総合研究所十日町試験地の歴史は古く、大正6年に開設されました。今年で88年の歴史を刻みます。明治末期、毎年全国各地で大水害が発生し多くの被害をもたらしました。国はその予防対策の一環として、全国の主要河川に沿って39か所の森林測候所を設置し、河川の上・中流域の気象観測強化を図りました。十日町試験地もその一つでした。

当初は気象観測だけでしたが、その後森林の治水や水源かん養の研究が加えられ、雪国での雪害発生多発に伴って雪の研究も行われるようになりました。以来、雪質、密度・硬度・引っぱり強度・せん断強度・含水量、圧縮性など積雪の特徴についての基本的な研究が数多く行われ、その後の雪水学の発展に大きく貢献しました。

また、実験斜面や実験林による雪崩発生と



ほぼ10日おきに行われる積雪の断面調査



最新の超音波積雪深計

その影響の研究、雪崩防止柵の実験や立木の密度と雪崩防止の関係など、森林雪害や雪崩の防止に関する研究で大きな成果を上げています。当初、気象観測が主な業務で全国に39か所あった森林測候所は、「雪」という独自の研究テーマを持つ十日町試験地だけになりました。



雪に住む



雪掘りから開放 多様な雪国の家大集合！

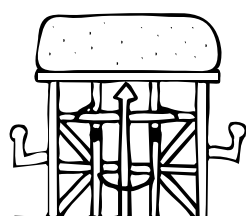
私たちの冬の生活は毎日の雪処理と切り離すことはできません。とりわけ「雪掘り」（屋根雪の処理）は、遠い昔から逃れることのできないつらい重労働でした。背丈を超えるような屋根雪を下ろすと地上の雪は屋根までつかえ、今度はその雪をのける作業が待っていました。雪を出す場所が家のまわりになければいいの

ですが、家が混み合っているところはさらに遠くまで運ばなければなりませんでした。豪雪地に住む苦しみはまさにこの一点にあったと言っても過言ではないでしょう。それが近年になって、屋根雪を下ろしても居住空間が埋まらない高床式住宅や、落雪式、融雪式、耐雪式の住宅などいわゆる「克雪住宅」が普及してきました。また、自然条件を利用して雪を消す工夫をしているところもあります。それらは、建てられた時期や立地、居住者の思いなどでさまざまな形になって表れています。そのいくつかを紹介します。

雪国の住宅の いろいろ



手掘り式



耐雪式



落雪式

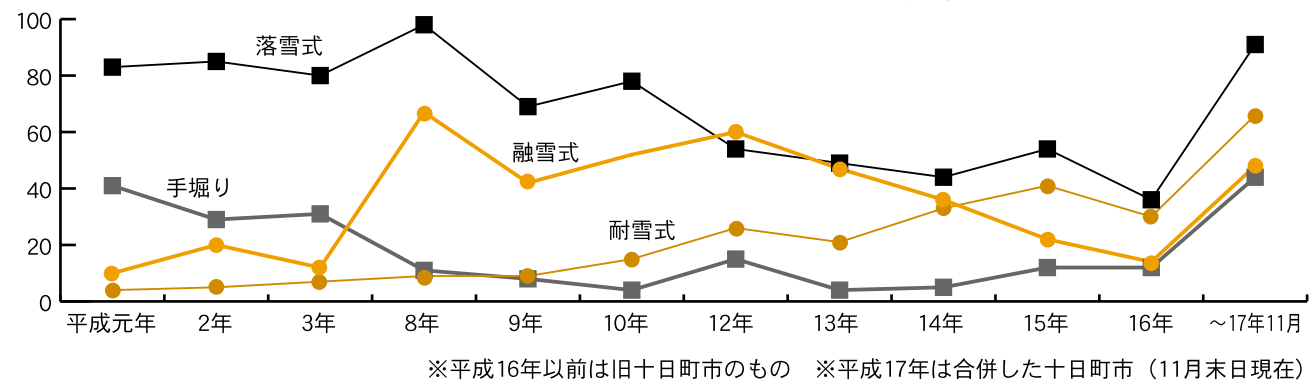


融雪式



高床落雪式

新築住宅における屋根雪処理方式の推移



雪掘りは苦になりません （高床式）

伝統的なこの地域の住宅は、かやぶき民家も含めて2階建てが一般的でした。さまざまな制約もあつてなかなか3階建ての住宅は普及しませんでした。昭和50年代ころから1階部分を鉄筋コンクリートの基礎で固めた高床式住宅や、屋根から自然に雪が落ちる落雪式住宅が普及しました。そうしたお宅におじゃましました。

佐藤丈二さん（滝沢・71歳）のお宅は昭和57年建築の高床式住宅です。「また高床式の住宅は珍しくての。このムラでは一番最初でした。雪掘りが楽なように梁間を短く桁行を長く作りました。」

ならなかったの。前の家のかやぶきで、家を雪の中から掘り出してました。ほんにぶちやりたく（捨てたく）なつたつて（笑）。雪掘りは普通の年は3〜4回、今年の冬は7回で、さすがに人から手伝ってもらいました。

「今年からは俺が掘らんぞ。」
「健康のためにもいんがの。」
顔を見合わせながらほほえむお二人でした。

今は極楽だこっつお（高床落雪式）



佐藤信一さん（小脇・77歳）のお宅は昭和54年建築の高床落雪式住宅です。

「今から27年ほど前、ここにずっと住まんだっけ。雪掘りをしなくてもいい家に住みたいと思つてある家を見学に行ったんその。それがそのころまだ珍しい高床落雪の家で、『これだ』と思いました。」

そこで佐藤さんは、出稼ぎ先で一冬かけて大まかなプランと間取りを決め、雪消えを待つて早速申請しました。

「どこの家も男衆は出稼ぎに出ていて雪掘りは女衆の仕事で。雪掘りしなくてもよくなって、ありがてつて。」

奥さんのサクさん（79歳）は目を

細めながら当時を振り返ります。「このムラは15〜16年前までは冬期孤立集落で、4km先までかんじきはいって買い出しに行つたんその。『女衆みんなが段ボール箱2つ背負つての（笑）。』それに比べりゃ今は極楽だこっつおの（笑）。」

今まで屋根から落ちた雪を片づける必要がなかった佐藤さんですが、「今年はさすがに1回のけた」とのこと。屋根は建ててから1回ふき替えました。

「ほんとと、これほどここに住むとは思わねつけどもの（笑）。」どこにも行くところがねんが、ここに住まんそ（笑）。」

笑顔の絶えない佐藤家です。



「ムラのどの家も同じだったの。で別に苦に

機械任せにしません

(融雪式)



廣田一政さん（山崎・77歳）のお宅は昭和40年ころ建築の2階建て住宅で、平成9年に温水を屋根裏に循環させる融雪屋根に改修しました。

「国道（117号）改修のために家を建て替えるか引き家しなければならなくなつて、少し引つ込んで屋根と壁に手を入れたんだて」。

続けて奥さんの和子さん（73歳）はいきさつをこう語ります。

「別な場所に新築するか高床式にするかなどいろいろ悩んだ末、今の形になりました。『昔の家のままがいい』という息子の言葉が決め手になりました」。

材木店を営んでいた廣田さんが建てた家は、もともと太い材料をふんだんに使つてあり、特に「屋根は合掌造りで雪を掘らいらねぐれなんだ」という頑丈な造り。

「木の家は味があつて、このままにしておいて良かったて」。

「それに、玄関が1階だと人様がよく来てくださるし、自分も出かけるのに楽ですよ」。

廣田さんの家の屋根面積は約50坪。真冬は400ℓの灯油タンクに3日〜4日おきに給油することです。融雪装置を効果的に使うコツは、「機械任せの自動ではなく、手動でスイッチをこまめに切り入れすること」。

廣田さんの冬の日課です。

こういう家にしてよかった

(高床落雪式)



富澤一郎さん（太平・71歳）のお宅は平成2年建築の高床落雪式住宅。富澤さんと奥さん、それに息子さんの3人で暮らしています。

「前の家は4間1尺×7間に付属屋もあつて、雪掘りが大変だったので、小さくしようと思つてこの家を建てたんその」。

横長で三角形の張り出しが付くユニークな形の富澤さんのお宅は、「娘の夫が大工で、やりたいように作ってもらつたらこうなった（笑）」とのこと。屋根雪は4か所にまとまって落ちるように設計されています。

「まとまって落ちるんで、まわりの人たちが心配してくれるども、大丈夫だて。落ちた雪は除雪機で飛ばしてらんぞ。楽だぜの。ただ、雪が落ちるとき音がでっけんだんが、最初はたまげたっけどもの（笑）」。

「去年の地震でも壁のクロスが傷んだぐれで何ともなかったし、今年の大雪も乗り越えたんが、へえ大丈夫だの。こういう家にして良かったて」。

時間に余裕があるので、富澤さんはシルバー人材センターに登録して、個人の住宅や公共施設の「雪掘り」業務に従事しています。

「これが健康の秘けつだの」と言つて富澤さんは外に出ました。

山の水に感謝

(湧水利用一部落雪式)

山岸祭一郎さん（片桐山・80歳）のお宅は湧水を引き入れて屋根雪を処理しています。

「200mほど離れた山の横穴から、家のまわりの池に水を引き込んで雪を消してますて」。

山岸さんが山の水を引き込んだのは40年ほど前のこと。そのころは今のようないくつもの長いポリエチレン管はなく、4mの塩化ビニール管を一本ずつつなげていきました。

家が密集したり地形の制約があつたりして雪を落とせない場合、あるいは高齢者世帯で階段の上り下りが負担になるような場合には、融雪式住宅を建築したり既存の屋根を融雪タイプに改修したりする事例が増えています。また、屋根から落とした雪を井戸水や湧水を利用しとくす例もあります。

「それも継ぎ手材なんかなくての。片っぱの口を火であぶつて広げ、そこにもう片っぱを差し込んでつなげていったんそ。気が遠くなるような仕事だこつこつ（笑）」。

「そのおかげで、かなりの雪を入れても1日〜2日で消えらんだがの。ほんに助かるての」と奥さんのトシさん（75歳）。



あったかくてうまい水

(横井戸利用落雪式)

齋木定夫さん（小脇・61歳）のお宅は、伝統的な中門造りのかやぶき民家にトタンをかけて落雪屋根にしたものです。

家の前面が下り斜面のため、家の前の雪はスノーダン



プなどでここに落としています。反対に家の裏は上り斜面ですが、この斜面に横穴を掘って作った井戸と、山の湧水の二つの水源で雪を消しています。

「横井戸は昔からのもんで、20m以上掘りこんでる。水があったかくてうんめんだんが、鯉もうれしげに泳がんだがね（笑）」。

実際、池には大小の錦鯉が悠然と泳いでいます。

「だっけ、大雪の年でも家の後ろの雪はかまつたことがないんですよ」。と犬の散歩から帰つてきた奥さんのマスエさん（56歳）が続けます。

「もう一つの水は300m以上離れた山から清水を引いてらんでの。35年前から雪消しに使つてらんだども、やっぱり道中が長えと温度が下がってしまうの」。

それでも、水量が豊富なので家の脇の雪消しには十分なようです。地形と自然の恵みをうまく利用している典型例ですが、何よりも、自然な笑顔が印象的な齋木さんご夫妻でした。





小堺繁憲さん（儀明・55歳）は、母親のエクさん（75歳）とともに酒店を営んでいます。その店舗がユニーク。最近豪雪地でよく見かけるアーチ型鉄骨構造の車庫（倉庫）、いわゆる力マボコ車庫と同じ構造になっています。それも、昭和59年建築というから、まだこのタイプの車庫が量産されていないころのことです。

一時名所になりました （アーチ型鉄骨耐雪式）

小堺さんがこの店舗を建てることになったきっかけは、仕事でトンネル工事の現場に出入りしていたとき、アーチ型の鉄骨に出会ったこと。

「こら雪に強いと思い、材料集めから始めて、いろいろ試しながら手探りで建てました」。結果として、今私たちに身近な形の力マボコ建物になりました。

「建てる前は家族に反対され、落ちた雪が隣の建物を押しつぶすんじゃないかと心配されましたが、できてみたら大丈夫でした。今は建てて良かったと思っています（笑）」。

小堺さんの勇気が、新しい耐雪建築を生んだといえるかもしれません。

克雪住宅などへの支援制度

新築・増改築・改良などで克雪住宅などを建築する場合、有利な支援制度があります。
（今年度の受付を終了しているものもあります。詳しくは担当まで問合せください）

克雪住宅協調整備事業

融雪式または耐雪式住宅などの新築・増改築・改良などを行う場合に補助金を交付するもの

◆補助金上限 44万円

克雪住宅づくり資金貸付制度

融雪式、落雪式、耐雪式住宅の工事を行う場合に工事費の10%～80%の範囲で貸付を行うもの

◆貸付限度額及び貸付利率

融雪式・耐雪式 600万円（年1.50%）

落雪式 400万円（年2.00%）

被災者住宅復興資金利子補給制度

◆利子補給を受けることができる人

十日町市が発行する、震災による被災証明書を受けて、市内で自ら居住するための住宅の建設・購入または補修するもの。また、金融機関または住宅金融公庫から復興資金の貸付を受けたもの

◆借入限度額 住宅の建設または購入1,100万円、住宅の補修590万円

◆利子補給率 年収800万円以下1.9%、年収800万円超1.0%

◆申込み期間 平成20年3月31日まで随時

雪国住まいづくり支援（補助）制度

◆補助を受けることができる人

震災により被災し、半壊以上の住宅の所有者で、市内に雪国特有の住宅様式により再建したもの

◆補助の対象となる住宅 融雪式・耐雪式または落雪式住宅で再建するもの

◆補助金上限 66万円

◆申込み期間 平成19年度まで随時

申込み・問合せ
建設課建築住宅係 ☎757-3111（内線251）



大島清松さん（丸山町・63歳）のお宅は平成14年建築の鉄骨耐雪式3階建ての住宅です。車庫の前もロードヒーティング融雪システムを採用しています。

「土地区画整理事業実施を機会に新築しました。ランニングコストなどいろいろな要素を考えて耐雪式にしました。去年の地震でも壁のクロスが破れた程度で済みました」。

「茶わんも割れましたけどね（笑）。と奥さんのトミ子さん（57歳）。

大島さんのお宅は、克雪構造のほかに、高気密・高断熱仕様、バリア



フリー仕様、オール電化仕様など、快適な雪国生活を送るための工夫が凝らされ、1階は主に母親のフクさん（91歳）が利用し、2階・3階を夫婦で使っています。

「健康のためにエレベーターは付けませんでした」。「冬の寒さを感じない暖かさです」。「夜間電力を活用しているので電気料もそれほどかかりません」。「セントラルクーラーは、どこでも掃除機みたいないろんなところに吸引口が付いているので、掃除が楽しくなりますよ（笑）。これはもっぱら清松さんの仕事です」。

何か問題点は？と投げかけると、「うーん」と悩むご夫妻。家族関係も含めてとても快適な様子でした。

地震にも強いです（木造耐雪式）

木造耐雪式の建物はそれほど数が多いので紹介できないかと思っていましたが、意外なというかやっぱりというところにありました。

先に紹介した森林総合研究所十日町試験地（P4～5）の庁舎は、木造耐雪構造の建物です。平成3年に建築されたこの庁舎は、木造2階建てで積雪3mまで耐えられる構造になっています。

「最近普及し始めている構造合板や集成材を多用して、壁で重量を支える設計になっています。阪神大震災クラスの地震にも耐えられる構造で、去年の地震でも目立った被害はありませんでした」と村上茂樹さん。

「屋根はトラス構造になっていて、それが重量を壁まで分散させています。金具も特殊なものでめったなことでは外れませんよ（写真上）」と庭野昭二さん。

雪のことは、やっぱりここが1歩リードしているようです。



「融雪屋根もいいけど光熱費がかさむ」という理由に加えて技術革新により建築費が下がってきたこと、あるいは二酸化炭素排出抑制の観点などから、積雪に耐える構造の耐雪式住宅を選択する人も増えています。鉄骨構造が大多数ですが、木造耐雪式やアーチ型などユニークな構造のものも見られます。



雪国の民家を守る

雪に強く、快適な雪国の新しい住宅が次々に生まれていく中で、伝統的な雪国の住宅は次々と姿を消していつていきます。「暗い」「寒い」「汚い」などと言われる古い家から、「明るい」「暖かい」「きれいな」住宅に住み替えることは、実情を考えると、やむを得ない時代の流れといえるかもしれません。

一方で、古い民家が持つ風格やゆたかりとした空間などの味わいが見直され、古い家をリフォームしたり現代的な空間に造り変えたりして住み継いでいく事例も増えています。

大都市などから転入してきた人たちは、長い伝統に培われた民家の魅力にひかれた場合が多いようです。そんな古い民家の魅力を最大限に生かそうと、活動している事例を紹介します。



古民家復権

「こうすれば古い民家でも寒くないってことを、見てもらいたかったんですよ」。

千葉県白井市在住で、上野に古い民家を再生した別宅を持つ宮澤智士さん（68歳）は、移築再建の動機をこう語ります。

この家はもと小原にあったかやぶき民家で、享和3年（1803）建築という今から202年前のもの。



取り壊される直前、当時長岡造形大学教授だった宮澤さんが8年前に移築復元しました。



古民家がどんどんなくなっていく背景には、「古い家は寒い！」という現実があります。

「この家は寒くありません。床下から屋根裏までをひとつの空間にしてあり、冬でも17℃18℃、5月から10月の気候に近い状態になります」。

実際、気温だけでなく建具や床板なども同温に保たれ、湿度も40%前後に安定しているため、屋内はとても快適な空間となっています。

宮澤さんは、「ぶなの木学舎」と名付けたこの住宅を、文化的な催しや会合の場に提供しながら、民家の良さを再認識してもらう活動を続けています。

「民家を再生すると、新築と同じくらいの費用がかかりますが、空間や質感は昔の方がずっといいですよ。古い家を残したいと思ったらやってみるべきですね。雪国の代表であるここできたんだから、どこでも可能ですよ」。

「古民家を復権させよう」という宮澤さんの提唱を受けて、古い民家を高気密・高断熱仕様に改築する事例は、世界遺産白川郷の合掌造りや東北地方の曲がり家など、雪国の各地で、少しずつ確実に広がっています。

かやぶきに住む

夫婦でかや刈り

木暮茂夫さん（47歳）は、東京から松之山地域の中立山に移り住んで4年目になります。

「古いかやぶき民家を買ってそこに住み、かやぶき職人に弟子入りして修行中です」。

修行中などと謙言していますが、自分でかやを刈り、自分の家の屋根は自分で直しているのですから、もう一人前のかやぶき職人と言ってもいいでしょう。木暮さんが今年最後のかや刈りをするというのでおじゃましました。

ときは11月26日金曜日、場所は木暮さんの家から5kmほど離れたところにある道路脇のかや原。この日は、仕事の関係でふだんは東京に住んでいる奥さんの孝恵子さん（48歳）も駆けつけていました。

車を降りてまず最初に始めたのがかま研ぎです。慣れた手つきで「ナタガマ」と呼ばれる厚手のかまを研いでいきます。なんと、孝恵子さんまで研いでいるではありませんか。

「何度か来ているうちに見よう見まねで覚えまし



た。「教え方がいいからな」とは茂夫さん。

いやいや、奥さん・孝恵子さんがえらい。都会暮らしの人がここまでやるとは…大変でしょう。

「大変だけど慣れました、よくあることなので（笑）。」はあ、よくあることですか。最近では、この地域の人でもかま研いだことがない人の方が多いんですけど…と、つぶやいている間に二人はかや刈り開始。

一度雪をかぶって倒れたかやは刈りにくそうです。倒れた方向に合わせ体の向きを変え、ひとつかみずつ刈ってはまた向きを変えて刈り進み、1時間ほどで、ひと抱えの束を10束あまり刈りました。

そのまま受け入れるさ

急いで家まで戻って今度はかやの束を円すい形に束ねて固める「二才」作りです。

「これ抑えて」「引つばって」「結びはここで」「次運んで」…。次々に出される茂夫さんの指示に従って孝恵子さんもてきばきと動きます。30分ほどで、前に刈ってあったかやも含めて60束ほどの二才ができました。この二才も含めて6つの円すいが木暮さんの家の裏に並び、越冬の準備ができました。ちなみに、家一軒をふき替えるためには、この二才が120近く必要になります。

「最初は二才の作り方なんかわからなくて適当に束ねていたら、ムラのじいちゃんばあちゃんたちが集まってきて、『そう



じゃねて、そろそろしゃんだ」と言って教えてくれました。暮らし全般でムラの人たちが師匠です」。

木暮さんの前の仕事は報道カメラマン。田舎暮らしに興味があったわけではないといいます。

「たまたま雑誌の仕事でかや刈りを取材したとき、刈ったかやのにおいが気に入ったんです」。

そして、風景に魅せられた中立山で、「たまたまかやぶき民家の空き家があったので住むことになった」ということです。

「雪ですか、それほど大変だとは思わないですよ」。

「大変ですよ」と孝恵子さん。

「なんだかんだ言っても降るんだから、そのまま受け入れるさ」。

6軒の集落に、自然体でとけ込もうとする木暮さんです。

冬を快適に過ごすための家づくりや、伝統の家に暮らすための取り組みなどさまざまな姿がありました。また雪に戻って、雪を楽しむ、雪を利用しようという新しい動きを見てみましょう。



雪室への投雪（仙田体験交流館）



また、地域イベントにも積極的に参加し、利雪活動や環境への取組を紹介する「雪だるま通信」を発行し

そして、「雪は、基本的に現代生活を邪魔するものです。でも恵みもあります。雪という冷やす資源を『タダで山ほど持っている』と思って、胸を張って世界一の豪雪地で生きて話しました。」

多面的な雪利用

次に高校生による実践活動報告が行われました。

岩見沢農業高校（北海道）では、利雪を農業実習に取り入れ、鶏舎冷房、花の低温栽培、暑さに弱いシイタケ栽培に取り入れるなど多面的に雪を利用しています。



雪冷房に挑戦

地元松代高校では、「雪冷房プロジェクト」と銘打って雪利用の取り組みを始めています。

地である北海道の取り組みを参考に融雪水の利用や簡易冷却装置を制作し、教室や格技場の冷房に取り組み予定です。来年の夏が楽しみですね。

せっかくある雪だから

最後に、高校生による楽雪ワークショップ報告発表が行われました。報告では、雪に対する思いや、雪冷房の方法や活用方法などについて3校合同で意見交換した結果、他校の



「雪から学んで楽しもうと思います」と、それぞれ思いを語ってくれました。

これからは、雪を学び利用し楽しむ機会がもっと増えそうですね。最後に、地域がまとまって雪に対応している事例を見てみます。

克雪住宅から利雪住宅へ

これらを踏まえて上村さんは、「雪は大変・雪はつらい」から、「雪から学ぶ・雪を楽しむ」に発想を転換して、次のような形で積極的に雪を利用することを提唱します。

- ① 農業及び加工品に付加価値を付ける（例：雪下になじん・雪中貯蔵酒）
- ② 輸送しない（その場調達・その場消費）
- ③ 事業の大規模化（効率的な利用）
- ④ 個人利用の促進（新潟発の「利雪住宅」の発信）

中でも利雪住宅の普及については、60㎡≒30tの雪をためて雪冷房を行う住宅が、新潟県のモデルハウスとして来年3月に完成します。この成果から利雪住宅が普及していけばうれしいと思います」と期待を込めて話しました。



利雪のパイオニア

続いての講師は市内在住で（財）雪だるま財団理事の樋口利明さん。

樋口さんは、昭和63年の自宅の新築時に雪室と雨水貯留井戸を設けて冷房や生活用水に利用するなど、利雪、楽雪のパイオニアとして知られています。15年間の雪利用活動の成果を踏まえて、「これから先、石油や電気の値段は下がらないと思います。新エネルギーとして、雪の果たす役割はますます大きくなるでしょう」と、雪活用必要性を説きました。

いきましょう」と結びました。

雪を楽しむ



雪を利用して楽しむ代表として、小正月行事や雪まつりなどがあげられます。これらは、「雪を使って元気を出そう!」という、いわゆるソフト事業です。

最近では、雪をエネルギー資源として活用するハード事業的な取り組みも進められています。雪冷房や農産物の雪中貯蔵などがその代表例です。

雪から学び雪を利用して楽しむ実践例を、「雪から学ぶ楽雪フォーラム2005」の内容から見てみます。



- 1、講演（敬称略）
長岡技術科学大学講師 上村靖司
「雪との共生、利雪の可能性を探る」（財）雪だるま財団理事 樋口利明
「雪を耕し、雪に暮らして15年」
- 2、実践活動の発表
岩見沢農業高校（北海道）
「雪冷房で新しい営農技術」
沼田高校（北海道）
「利雪学習の取り組みについて」
- 3、松代高校雪冷房プロジェクトについて
- 4、高校生による楽雪ワークショップの報告発表

雪利用は昔からのビジネス

長岡技術科学大学講師で、雪害や克雪・利雪技術に関する分野が専門の上村靖司さんは、エネルギーや食糧、環境など地球規模で人類が直面する課題を念頭に置きながら、雪とのつきあいを考える必要があると前置きしたうえで講演の本題に入りました。

上村さんはまず、雪を冷熱エネルギーとして利用してきた歴史は古く、万葉の昔から「氷室」が使われて

地元と北海道の高校生も参加

12月10日（土）、新潟県十日町地域振興局主催の「雪から学ぶ楽雪フォーラム2005」がクロス10を会場に次の内容で開催され、高校生を含む約120人が参加しました。



いたことが分かっていて、この地域でも「雪室」や「雪ニオ（雪シカ）」として清酒や生鮮食料品の冷却用に使われ、ビジネスとして成り立っていたことなどを振り返りました。そして、「現代も雪冷房・雪冷蔵などの分野で北海道を中心に活用が広まっていますが、まだまだ一般的にはなっていません。その主な理由は、雪の冷却エネルギーで生まれるプラスのコストより輸送費などのマイナスコストの方が高く、『経済的に合わない』からです」と、現状を紹介しました。

雪を冷熱エネルギーとして利用する場合のメリット・デメリットとして次のことがあげられます。

- ①あまり費用をかけずに冷熱ができる（電気消費量の減、温排気が出ない、農産物の貯蔵に最適）
- ②冷房の質が高い（温湿度バランスが良い、空気清浄効果がある、個人住宅でも快適）

デメリット

- ①分布密度・エネルギー密度が小さい（集めるのが大変、大容量の倉庫が必要）
- ②需要と供給が合わない（あるのは冬、使うのは夏。欲しいのは都市、あるのは山）



熱心に聴き入る参加者

活動をj知ることj課題の解決策が見えてきたことjなどが発表されました。また、事前に北海道と十日町地域の高校生を対象に行った雪に対するアンケート結果も発表され、十日町地域よりも北海道の高校生の方が「雪が好き」という意見が多かったことに、驚きの声があがっていました。

松代高校から参加した2年生の樋口玲奈さん（写真左）と柳鮎美さん（写真右）は、「雪を嫌なものj見ていましたが、これからは、せっかくある雪なんだからそのまま受け入れようjと思います」。

「雪から学んで楽しもうjと思います」と、それぞれ思いを語ってくれました。



夢雪隊が いない社会に



川西地域で活動を続けるスノーボランティア夢雪隊は、阪神・淡路大震災でボランティア活動をした若者を中心に、平成8年に発足しました。

1時間半の決められた時間だけだからです。それ以外の時間に投雪すると事故の原因になります。
「勤めの関係で時間が合わない人もいますが、皆さん協力してくれています。ありがとうございます。」
みんなで時間を分け合う気持ちがあるからできる取り組みです。



メンバーは20代から60代の男女約90人で、高齢者世帯や障害者世帯などのうち、要援護と認定された世帯の屋根の雪下ろしをしています。
全体が5つの隊に分かれていて、それぞれが受け持つ家が決まっています。1軒を5〜6人で掘るため、短時間で終わって疲労も少ないことから、帰って自分の家の雪下ろしをする場合もあります。

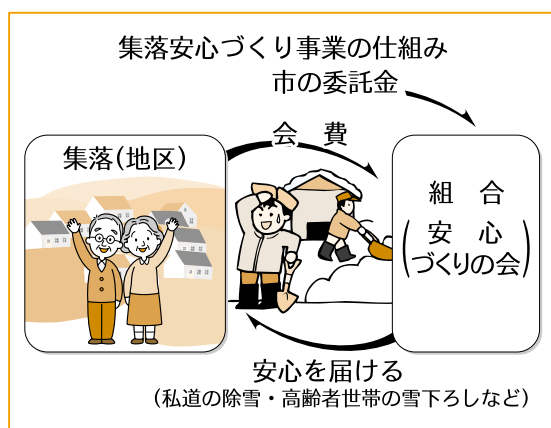
「夢雪隊の究極の夢は、夢雪隊がなくなることです」と、代表の上村保弘さん（上野・46歳／写真中央）は笑います。特別仕立てのボランティアではなく、地域の助け合いで解決することを望んでいるからです。実際、集落で対応するところが増えています。
夢の実現は、そう遠くない将来のことかもしれません。



心は一つ― 集落安心づくり事業

滝沢では、集落全体（10世帯）で「集落安心づくり事業」に取り組んでいます。

これは、各世帯が会費を出し合い、市の委託金を受けて組合を設置します。次に、集落内の適任者を選任して、市から貸与された除雪機などで各世帯の私道（玄関前）の除雪や高齢者世帯の雪下ろしなどをしてもらいます。そして、その作業料や燃料代などを基金から支払うという仕組みで、旧松代町で始められました。
区長の佐藤丈二さん（P7参照）は、「この事業に取り組んで5年目になりますが、町（旧松代町）の事業になる前は、集落独自で取り組んでいました。年寄りしよだけでなく、



みんな喜んでいますよ。玄関前まで車が入るので、特に郵便局の配達の人喜んでくれます(笑)と、思わぬ成果に気分も上々です。
「これだけのムラだんが、助け合わねければ暮らしていがんね。ちつたお金出しても、安心が買えれば安いもんですよ。」
みんなの同じ思いがこの事業を支えています。

雪はやかいかいなもの。そして役に立つもの。どっちにしても、私たちは雪によってつながりを深めています。もしかしたら、雪は私たちの心をつなぐために降ってくるのかもしれません。
あるがままを受け入れて、雪といっしょに歩んでいきましょう。



雪とともに歩む

雪を楽しむ雪を利用するにしても、必要以上の雪はやっぱりやっかいもの。現実的には降った雪は処理しなければなりません。それも独りよがりのやり方ではなく、一定のルールを守りお互いに助け合いながら進めることが大切です。

中越大震災を契機に、地域の結びつきは一層強くなったといわれます。そのことを実感するような事例を紹介します。

流雪溝は 市街地除雪の 生命線

十日町市の市街地、信濃川に流れ込む川治川と田川の間の区域には流雪溝が整備されています。

家が密集する市街地では、屋根雪などを処理する場所がありません。このため、道路沿いに流雪溝を整備し、複雑な経路を経て雪を信濃川に流しています。

対象となる世帯は約3,500世帯で、区域を7つのゾーンに分け、それぞれの流雪溝の沿線ごとに通水時間を区切って雪を流しています。
水源は、1級河川・田川と、東日本旅客鉄道株式会社から供給を受ける1級河川・信濃川の水でまかなっています。通水期間は、毎年12月16

日ごろから3月15日までの3か月間。この流雪溝を集中管理しているのが十日町市流雪溝運営協議会で、拠点となる本部事務所は十日町駅西口前の中継ポンプ場にがあります。

この本部事務所では流雪溝運営の全般を支えているのが、運営委員長の丸山富士郎さん（南新田町3・66歳）と事務局長の山田正毅さん（田川町3・62歳）です。

「とにかく利用者の皆さんから時間を守ってもらうこと、これに尽きますね」と。

丸山さんは言います。というのも、流雪溝に投雪できるのは、各路線とも1日1時間、





中越地震から1年、各所で本番さながらに行われた十日町市防災訓練



お盆の集中豪雨により天水越地内で大規模な地すべり災害が発生



環境に負担をかけない資源循環型社会と地域農業発展のために期待がかかる川西有機センター



2006年の第3回大地の芸術祭に向けて開催された越後妻有2005夏10days（写真は松代ダンス之稲作図絵）



厳かな雰囲気の中で執り行われた十日町市合併記念式典



十日町・コモ姉妹都市提携30周年を記念して来市し、市役所前で園児から花束を受け取るコモ市親善使節団一行



合併後の地域発展を目指し、市民と行政の協働によるまちづくりを進めるため各地域で発足した地域協議会（写真は中里地域）



新市の銘板を除幕後、市旗を初披露する山本市長職務執行者

新十日町市誕生！ 2005年を振り返る

4月1日(金)、新・十日町市誕生。旧5市町村がスクラムを組み、雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまちに向けて歩き始めた2005年を振り返ります。

2005主なできごと

- | | |
|----|--|
| 1月 | ◆豪雪対策本部設置（十日町・川西・中里・松代・松之山地域）
◆第56回十日町雪まつり（十日町地域）
◆中里村制施行50周年記念芸能祭（中里地域）
◆市内・市外局番が3ケタに
◆川西町閉町式 |
| 2月 | ◆第19回かわにし雪まつり（川西地域）
◆まつだい芝峠温泉「雲海」リニューアルオープン（松代地域）
◆第17回雪原カール二バル2005（中里地域）
◆第18回越後まつだい冬の陣（松代地域）
◆十日町市閉市式・市制施行50周年記念式典 |
| 3月 | ◆松之山町閉町式
◆中里村閉村式
◆飛渡第二小学校・真田小学校閉校、
六箇保育園・室野保育園・犬伏保育園閉園 |
| 4月 | ◆新・十日町市誕生
◆キナーレ明石の湯入館者20万人達成
◆ゆくら妻有オープン
◆市長選挙・市議会議員選挙
（田口直人市長誕生、新市議会議員40人決定） |
| 5月 | ◆十日町市成人式・第29回十日町きものまつり
◆井口カズ子教育長就任
◆高機能消防指令センター運用開始
◆サッカー20歳以下日本代表候補が当間高原でキャンプ |
| 6月 | ◆十日町市合併記念式典
◆新十日町市体育協会発足
◆知事とのタウンミーティング |

ワールドユース選手権大会に向けて当間高原でキャンプを行ったサッカー20歳以下日本代表候補



被害を軽減するために最新のシステムを完備した高機能消防指令センターが運用開始



初登庁で花束を手渡される田口市長



- | | |
|-----|--|
| 7月 | ◆川西有機センター運用開始
◆ミオンなかさと入場者300万人達成
◆市報の愛称「だんだん」のロゴマーク使用開始
◆十日町・コモ姉妹都市提携30周年コモ市親善使節団歓迎記念式典、コモ・十日町平和の旅使節団ゴール
◆第11回十日町石彫シンポジウム
◆大地の芸術祭越後妻有2005夏10days
◆サッカーJ1アルビレックス新潟が当間高原でキャンプ |
| 8月 | ◆市内各地域で地域協議会が発足
◆真夏の笑いの祭典「薪のある狂言」
◆第19回元祖真夏の雪まつり
◆豪雨により松之山地域で大規模な地すべり災害が発生
◆市の木がブナに、市の花がユリに決定
◆衆議院議員総選挙
◆十日町市防災シンポジウム
◆健康づくりフェア・市民福祉まつり、環境・下水道フェア
◆17年国勢調査実施（十日町市の人口は62,055人）
◆24時間耐久マラソン「ロ・マン24」
◆新十日町市観光協会発足
◆ほくほく線元気まつりinまつだい秋の宴
◆中越地震から1年、市内全域で防災訓練を実施
◆高速情報通信網整備事業住民説明会を市内35か所で実施
◆十日町・コモ姉妹都市提携30周年
◆十日町市親善使節団75人がコモ市を訪問 |
| 9月 | ◆第10回かわにし自まつり
◆第7回信濃川水なしサミット川はだれのもの
◆郷土芸能文化公演「ふるさとの息吹」
◆総合計画基本構想（試案）まとまる
◆ゆくら妻有入館者10万人達成
◆雪害対策本部設置 |
| 10月 | |
| 11月 | |
| 12月 | |



サポーターといっしょに竹とんぼづくり

中里地域子ども教室

～子どもの居場所、みんなで作りませんか～

少子化やテレビゲームの普及などにより、今の子どもたちは学年の違う子や地域の人と接する機会が少なくなっています。「中里地域子ども教室」は、地域の子どもたちに「居場所」を提供し、地域・集団の中で「自分の居場所」を作れる子どもたちを育成するために始められました。子

ながさきクラブ通信

中里支所
☎763-3111

どもたちが放課後などに学年の違う子と自由に遊んだり、地域の人々と交流したりする機会を設け、人づきあいについて学び、自分の考えをしっかりと伝える力などをほぐくみます。また、サポーターは、子どもたちのパワー・感性・可能性を最大限に生かして、子どもたち中心の活動をサポートしています。

いつやるの？

放課後や土・日曜日、休日、そして夏休みなどの長い休みに開催します。

だれがやるの？

参加する子どもは、小・中学生です。地域の大人や高校生が子どもたちの活動を見守ったり、いっしょに遊んだりします。

どんなことをやるの？

「スポーツ」「文化」「自然」「地域」などをテーマにしたプログラムがたくさんあります。地域で盛んなスポ

サポーター(助っ人)、ボランティア大募集!!

中里地域子ども教室を支えてくださる地域の皆さんを募集しています。「自分は何も特技ないから…」なんて言わず、ただ参加してくれるだけでも大歓迎です。ご協力いただける人は、ぜひ中里地域子ども教室サポートネットワークに登録してください。プログラムの内容に応じて事務局から指導を依頼させていただきます。

プログラム募集!!

子どもたちにいろいろな体験をさせてあげたい! 皆さんからのさまざまな提案を募集しています。「昔はこんなことしてたんだけど、今の子どもたちはできるだろうか?」というような提案など何でも結構です。

◆**プログラム例**: スポーツ・レクリエーション・農業体験・自然体験・地域の昔話・郷土料理作り・しめ縄作りなど



あ・そ・び・ま選科(何でも好きに遊ぶ教室)の様子

動を行います。定期的にプログラムの内容や期日、開催場所を載せたプログラムカレンダーを発行しています。

どこでやるの？

公民館や学校などを中心とした中里地域内の各種施設など、人が集まりやすく安全で、子どもたちが安心して活動できるところです。

参加費はいくらかかるの？

年度ごとに登録費(保険料)500円がかかります。それ以外は、基本的に無料ですが、工作などの材料費がかかる場合があります。

問合せ
中里地域子ども教室実行委員会事務局(教育委員会中里事務所内)
☎763-2493

まつだいたいステーション

松代支所
☎597-2220

3月11日(土)～
12日(日)開催

新市「十日町市」誕生記念

第19回越後まつだいたい冬の陣

冬將軍を蹴散らし、里に春の訪れを告げる越後まつだいたい冬の陣。華麗な春の祭典を演出する催しへの出場者を募集します。

『雪上みこし 生き!生き!合戦』参加団体募集



勇壮な松平太鼓に合わせ、技を競った15基のみこしが会場内を練り歩く。冬の陣初日のクライマックス、活気みなぎる雪上みこしへの参加団体を募集します。

◆**日 時**…3月11日(土)午後7時～

◆**参加資格**…十日町市・津南町・旧高柳町に在住または勤務する人を代表とする8人以上の団体。

◆**みこし規格**…●手作りみこし(未発表のもの)※既存のみこしでも参加できます●みこしの大きさは、おおむね2.5m×2.5m×4.0m以内●担ぐ棒などから「みこし」と判断できれば形態・重量の規制なし

◆**表 彰**…総合優勝、手作り部門賞、生き生き部門賞にトロフィーと賞金、そのほかは参加賞金を贈呈 ※総合優勝と手作り部門賞は手作りみこしを対象

◆**参加費**…無料

◆**募集数**…先着15団体※1月16日(月)より受付順

『のつとれ!松代城』出場戦士募集

まつだいたい駅裏山頂にある松代城を目指し、戦士400人が約3・5km

松代の自然

オニグチ

「はかんど(墓ノ処=地名)の上がり口」どこにアカマムシがドグロ(蟻)を巻いたような模様の気味の悪いキノコが生えていた…」と妻が言つので、松代の観音祭りの夕方、日が長くてまだ



薄明るいので生えている現地へ行ってみました。墓地がいくつもある場所なので墓ノ処と言つのですが、その坂道の脇の杉落ち葉の中に、その不気味な模様のキノコがありました。

これはオニグチというイグチ科のツヨタケ(ヌメリイグチ)の仲間です。以前にも何度か見かけたことがあり、採って試食したこともありましたが、姿形に似ないで案外戴けるものでした。しかし、悪食家でない限り、なかなか食指が動くものではないかもしれません。変なキノコは食べないに越したことはありません。

(文と写真 高橋八十八)

の雪道を駆け上がる。元気まつり冬の陣の象徴「のつとれ!松代城」への出場戦士を募集します。

◆**日 時**…3月12日(日)午前11時出陣

◆**出場資格**…出身国を問わず元服年齢(高校生以上)の身体屈強な男女

◆**参加費**…3,000円

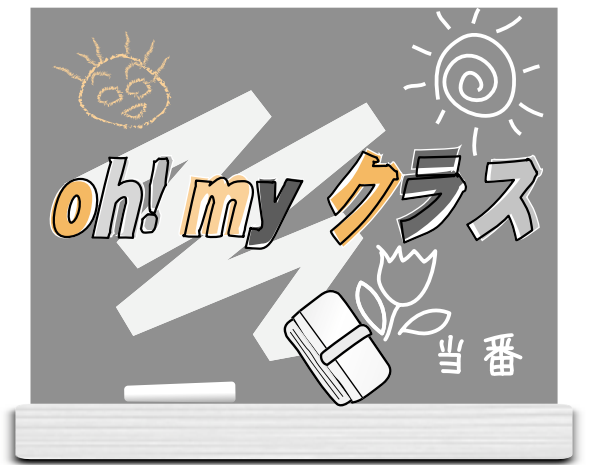
◆**賞 品**…優勝者に地元産コシヒカリ一石(150kg)。そのほか抽選でハワイ旅行(5人)など。

◆**申込み**…はがき、FAX、Eメールのいずれかで越後松代幕府本陣へ。受け付け



申込み・問合せ

越後松代幕府本陣(松代支所内)
〒942-1592十日町市松代3252-1
☎597-2220 FAX597-2526
Eメール ms-chiiki@city.tokamachi.niigata.jp



松代中学校1年A組

6

学級目標は「夢・挑戦・団結」です。入学当時「新しいことに挑戦しよう」「居心地の良い、一人ひとりが安心して生活できるクラスにしよう」という願いを込めて決めました。3つの小学校から集まった男子14人・女子11人の1年A組は、1人ひとりの目標に向かって自発的に取り組んでいます。仲間意識も強く、団結力のあるクラスです。



山本葉さん——普段はバラバラだけど、いざというときは一丸となつて行動できるのが良いところかな。音楽祭のときは、悪いところを言い合つて一生懸命練習しました。賞は取れなかったけどみんな満足です。2年生になったら、下級生に尊敬される、みんながあこがれるようなクラスになりたいです。個人的にはクロカンを全出場目指します。
米山宏先生——とにかく明るくてノリがよく、元気いっぱいいるクラスです。感心するのは、一度言つたことは必ず実行すること。同じことを2度言つたことが無いくらいです。2年生になったら後輩の手下となり、3年生を力強くバックアップして、生徒会をはじめさまざまな行事や活動に、全力で取り組んでいってほしいと思います。



上布川地区 (旧松之山町)

- ・倉尾川
- ・藤中
- ・東上
- ・上鰾池
- ・下鰾池

持の娘・京子は鏡のような水面に映つた自分の姿を母と思い、池に飛び込んだ」という悲しくも切ない話です。
昭和61年、この伝説を後世に伝えるため池の復旧工事が行われ、鏡ヶ池公園として整備されました。池の周辺にはアヤメ園もあり、初夏には紫色の花を奏しませてくれます。また、池畔には、県指定の天然記念物「中尾の大杉」があります。目通り10m、樹高30m、樹齢約千余年の大杉は、鏡ヶ池とともに松之山地域の貴重な観光資源となっています。



鏡ヶ池公園内には大伴家持の万葉歌碑も設置されています

上布川地区は、旧松之山町の南東部に位置し、津南町に隣接しています。地区の中心には渋海川の支流となる東川が北流し、その川に沿うように藤倉中尾、東川、上鰾池、下鰾池の5集落があります。津南町から伸びる国道353号は地区を横断する主要な路線ですが、松之山市街地までの幅員が狭く急こう配でカーブが多く交通の難所となっています。現在、松之山バイパスが建設中で高館トンネルの一日も早い開通が望まれています。
昭和41年、高館山を頂点に下鰾池地すべりが発生。下方を流れる東川をせき止め、3集落が一時孤立状態になりました。この地すべりで多くの農地が被災しましたが、今は区画整理された美しい棚田が広がっています。
中尾にある鏡ヶ池は、謡曲「松山鏡」の発祥の地です。松山鏡は越後二大伝説の一つで、全国にも紹介されています。伝説では、『万葉集』の歌人・大伴家持が、蝦夷征伐失敗の罪で越後に流されて中尾に落ちつき、名前を変えて鏡ヶ池のほとりで暮らしていた「家

おいしい！世田

〈六〉

「塩辛」の巻

(塩辛)



今からずーっと昔のこと、橘村の一面に小さなムラがありました。生まれて間もないムラで、まだ名前が付いていませんでした。

あるとき、都から検地のお役人がやってきました。そして、出来たばかりの田んぼの面積を一枚一枚測り、山の高さや川の幅、一軒一軒の間取

りや家族構成、空を飛ぶカラスの数まで調べました。

夕方、検地が終わるとお役人はムラの庄屋を呼び出し、「あーこれこれ、マロは腹が減つてもはや一歩も歩けぬ。このムラの名物を食わせておじゃれ」と、食事の接待を命じました。

庄屋は、食事の用意などしていませんでした。

あわてて妻に、「おいカ、お役人様がマンマ食いててやんだ。ごっつお出してやってくれ」と言いま

した。カ力は、「ごっつおつたつて、急に言われても間に合わねごっつお。漬け菜にこーこしかねぜ」答えました。

庄屋は「それでいよ」と、ほかのものも適当に見つくるつてお役人のところへ持つていき

ました。するとお役人は急に思い出したように、「あーこれこれ、そういえばまだこのムラの名

前を聞いておらなかった。何という名のムラじゃらほい？」と聞きました。

庄屋は正直に、「はあ、このムラは寺ヶ崎の一部でまだ名前が付いてねやんです」と答えました。

ちょうどそのとき、お役人が用意された料理を口に入れました。

「しよっぱあー！」。都の薄味になれているお役人は雪国のしよっぱじよっぱした味付けのものを食べるのが初めて

でした。そして、あまりのしよっぱさに口をすぼめながら、

「今日からこのムラの名前を『塩辛』とする！」と宣言して都へ帰っていきました。

これが塩辛の名前の由来です。



ななむ、おやも

その6



助役 大島貞二

大雪も十日町らしさ？

原稿を書いている14日(水)は、大雪が降り続いています。10日(土)から降り続いて5日目、飯山線・越後川口〜戸狩野沢温泉間が不通になったというニュースが入り、市では急ぎよ雪害対策本部を設置しました。

雪害関係の窓口は、本庁では克雪維持課、各支所では建設課が担当しています。降雪後から寄せられている「除雪車が来ない」「流雪溝の水はまだか」「消雪パイプが吹き上がっている」などの苦情・問合せにはその都度対応しているの、対策本部の設置は、情報の一元化を図り、より迅速に災害対策をできるように体制を整えたものです。

それにしてもこの雪の振りっぷりは尋常じゃありません。昨冬は、今年1月上旬から降り続いたため、1月12日に旧十日町市で対策本部を設置しました。ところが今冬は約1か月も早くこの騒ぎです。これが、十日町らしさというのでしょうか。
昼間でも薄暗くなって、雪が降り続く様は、やはり「白魔」と言うしかありませんが、その反面、晴れ間が出たときの輝くばかりの銀世界は、「これぞ我が故郷」と感動ものです。

合併して9か月目、震災対策をはじめ次々と押し寄せる仕事と格闘しているうちに、あつという間に年の瀬を迎えようとしています。今年は、電算事務の間違いや職員の不祥事が続き、市民の皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。発覚するたびに田口市長がおわびを申し上げましたが、紙面を借りて改めておわび申し上げます。

雪の振りあんなばいもそこそこにしてもらって、新しい年は明るく平穏の中で迎えられますことを祈り、仕事の面では市民の皆さんから一層喜んでいただけるように職員一同努力することを誓い、年末のごあいさつとします。皆さん、よいお年を。



子ども博物館でしめ縄作りに挑戦！

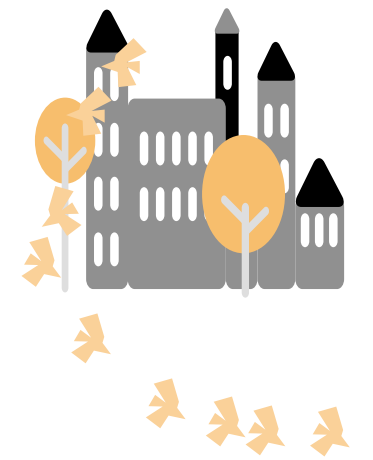
「先生、こんなになりました」「だいぶよくなったねえ」。12月10日(土)、子ども博物館パート2「シメナワとハッチンチョウをつくらう」が博物館で行われ、小学生9人が参加しました。子どもたちは講師や博物館友の会の皆さんから教えてもらい、わらを足で押さえながらしめ縄の形に編み込んでいく作業を体験。しっかりと押さえないとすぐに縄が緩む難しい作業でしたが、少しずつ上手にできるようになりました。縄をなった後、はさみで形を整えてから、白紙で作ったハッチンチョウをしめ縄に組み込み、正月飾りが完成しました。子どもたちは「お正月に家に飾ります」などと言いながら自分で作ったしめ縄をうれしそうに持って帰りました。

焼きいもを食べて元気に
中越大地震の被災者に焼きいもを食べ、元氣になってもらおうと12月9日(金)、茨城県石岡市の青果業有志による「さつまいもの会」が、さつまいも1トンと石焼きいも販売用の車2台とともに十日町市にやってきました。会のメンバーは、十日町商工会議所青年部の協力を得て市内の保育園や幼稚園、小学校、仮設住宅などに焼きいもを配付。愛宕幼稚園では、熱々の焼きいもを手にした子どもたちが「すっごく甘い」「おいしー」と喜びの声を上げていました。



ゆくら妻有入館者10万人達成

12月11日(日)、ゆくら妻有の入館者が10万人に達しました。今年4月29日に新しい施設として生まれ変わり、199日での達成です。記念すべき10万人目となったのは、半戸幸市さん(南新田町3・66歳)。花束と記念品を手渡された半戸さんは「雪が降って寒いから温泉で温まろうと夫婦で来ました。新しくなってから初めて来たのですが、まさか自分が10万人目になるとは。驚きましたがとてもうれしいです」と感想を話しました。柳良二支配人は「旧施設に比べ各所が1.5倍の広さとなり利用しやすくなった点と、地元の意見を取り入れた点の相乗効果により入館者は前年比を上回っています。今後は25万人、50万人を目指していきたいです」と抱負を語りました。



まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係(☎757-3111内線213)へ、お気軽にお寄せください。

tokamachi topics

tokamachi topics



最前線

某月某日某所。机に資料を広げて話し合いをする職員。何やら議論めいています。
「そこはもう少し削ってもらわないと。」
「いや、こら固でどこで削らんねやんだ。カツオブシみてはいがねこっつお」
何を？ 予算です。
ここは予算編成室。18年度予算の折衝が行われているところです。
こうした深い議論が連日繰り広げられ、新しい年の予算が固まっていきました。
良いお年を…。

震災復興願い、民謡舞踊が大競演

第21回民謡舞踊大競演会「うたとおどりの祭典」が12月4日(日)にクロス10で開催されました。昨年は震災により中止になったため、今年は震災復興チャリティと銘打ち2年ぶりに行われたものです。当日は、市内約40の民謡・舞踊団体が出演。およそ80もの演目が披露されるなど、大競演会の名にふさわしく盛大な会となりました。会場は1,000人を超える大観衆で埋め尽くされ、演目ごとに大きな拍手が送られていました。また今回は、「水戸黄門 唄と踊りの漫遊記」と題した特別企画が上演され大好评。東日本を巡る黄門様の珍道中に、観客は腹を抱えて大笑いしていました。



歴史の一端を身近に

中越大地震復興祈念講演会が12月4日(日)に情報館で行われました。第一部の報告会では、古文書整理ボランティア代表の丸山克巳さんが、震災により情報館に緊急避難した約7万点にものほろ古文書など歴史資料の概要を報告。第二部の講演会では、新潟県立文書館の杉本耕一さんが、新たに確認された縮問屋・加賀屋の新資料を解説しました。参加した約80人は、整理作業の過程で明らかになっていった十日町市の歴史の一端に、真剣に耳を傾けていました。

お正月にたくさん届いてね

年賀状初差出式が12月15日(木)に十日町郵便局(藤沢範雄局長)で行われました。式では、北越保育園の園児37人が元氣よく「お正月」を合唱。関係者と園児によりくす玉が割られました。その後、園児が家族や親せき、お友だちにあてた年賀状を次々とポストに投函していきました。十日町郵便局管内では昨年まで約50万通の年賀状が配達されていましたが、今年は地震の影響などにより配達数が約40万通まで減少。同局では来年の配達数を昨年並みの約50万通と見込んでいます。「感謝の気持ち」「復興への意気込み」など年賀状にしたためてみませんか。



読み聞かせ、手遊びなどを行います。●日時 1月26日(木)午

おはなしたまてばこ

50-5100)

情報館 ●問合せ 情報館 (☎7

どんぐりおはなしのへや

読み聞かせ、パネルシアターなどを行います。●日時 1月21日(土)午後3時〜4時 ●会場

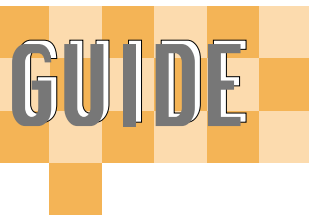
57-5011)

み・問合せ 中央公民館 (☎7

1月のなかよしランド

3歳未満児と保護者のふれあいの場を提供します。●日時 10日(火)・17日(火)・24日(火)・31日(火) (豆まき) 午前10時〜11時 ●会場

GUIDE 催し



お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111

登下校中や地域での子どもの安全確保！

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを守りましょう



広島県や栃木県での連れ去り殺害事件や長野県での行方不明事件など、子どもにかかわる衝撃的な事件が相次いで起こりました。十日町市では同様の事件が起こらないように、学校や学区で防犯指導・防犯対策を強めています。学校・家庭・地域が協力して、「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉に防犯の取組を進めましょう。

学校ではこんな取組や指導をしています

市内の小・中学校では、児童・生徒に「複数で登下校する」「決められた通学路を通り、暗くなる前に帰宅する」「公園などでは一人で遊ばない」「知らない人の車には絶対に乗らない」「不審者に声をかけられたときは近くの家や子ども110番の家に駆け込む」「大声や防犯ブザーで助けを呼ぶ」「できるだけ車のナンバーを確認する」ことを徹底するなど、継続して指導を行っています。

地域ぐるみで子どもたちを守りましょう

各学校では、保護者や地域と連携して、通学路や地域の危険箇所の点検、子ども110番の家の見直し・拡充、警察や地区安全協会との連携、防犯ブザーのあつ旋などに取り組み、学校・家庭・地域あげての防犯対策を実施しています。

地域で行われている主な取組を紹介

○中学校区の安全マップの作成及び全戸配布

○地域ボランティアによる校内巡視や登下校パトロールの実施(さわやかパトロール)

○保護者による通学路の再点検、やむを得ず一人で下校しなければならない区間の確認

○中学校区で防犯パトロール用プレート(軍用)の配布及び巡視

○PTAや地域の皆さんによる「子ども110番の家」やのぼり旗の設置

○登下校の時間帯に通学路付近で散歩や畑仕事などをしていただく(ちよこつとパトロール)

○地域の人たちによる子どもたちへの声かけやあいさつ運動

これらは、地域ぐるみで子どもたちを守るという取組ですが、犯罪の抑止効果につながっています。これからは、地域ぐるみで子どもたちを守ることが求められています。市民の皆さんのご協力をお願いします。

冬期防犯・通学安全パトロールを実施しています

市では12月から、市民の皆さんや子どもたちが犯罪の被害にあわないようにするため、冬期防犯・通学安全パトロール事業を開始しました。中越大震災復興基金雇用対策事業を



活用したこの事業では、民間警備会社に事業を委託して次の3つのパトロールを実施しています。

- ・安全パトロール (登下校時間の監視)
- ・防犯パトロール (犯罪多発箇所の監視)
- ・交通安全パトロール (冬期間の道路標識などの確保や環境美化)

市教育委員会では、地域の防犯パトロールの際に使用する車用のプレートを貸し出しています。必要なのは問合せしてください。

悪質犯罪にも注意！

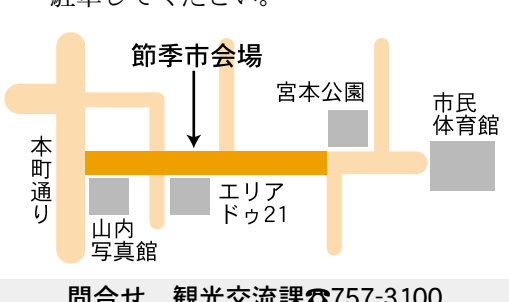
親の知人や学校の先生、市役所職員、警察、宅配業者などを名乗って、巧みに電話番号や名前を聞き出した後、現金を請求したりするなど、悪質な事例がいまだに続いています。注意してください。

問合せ
1) 学校教育課 ☎757-3111 (内線311) または市民生活課防犯安全係 (内線15)

節季市(チンコロ市)

前は震災の影響により昭和町通りに会場を変更しましたが、今回は例年どおり諏訪町通りで開催します。

- ◆日時 1月10日(火)・15日(日)・20日(金)・25日(水)午前9時〜午後4時
- ◆会場 諏訪町通り
- ◆交通規制 開催日の午前8時30分から午後5時までは車両通行止め ※車でお越しの場合は市民体育館周辺に駐車してください。



吉田ふれあいスポーツセンター室内ゴルフ練習場オープン

●期間 4月30日(日)まで ●営業時間 午前10時〜午後8時 ※火曜日と第3金曜日は午後5時〜 ●料金 ボール1個10円 ※5,000円・10,000円・20,000円のお得な回数券あり ●問合せ 吉田ふれあいスポーツセンター (☎752-0670)

十日町体力つくりスイミングスクール 新年無料体験教室

●期間 1月5日(木)〜31日(火) ●会場 十日町体力つくりスイミングスクール ●参加費 無料 ※

GUIDE スポーツ

川西総合体育館の閉館時間が変わります

1月〜3月の毎週日曜日の閉館時間を午後5時に変更します。 ●問合せ 教育委員会川西事務所 (☎768-2167)

保険料420円が必要●年末年始の営業状況 12月28日(水) 1月3日(火)は休館、4日(水)午前10時 午後7時は初泳ぎ無料開放●申込み・問合せ 10日町体力つくりスイミングスクール(☎758-3343)

むし歯のないよい歯の子

よい歯の子	住所	保護者
高橋 ゆうな	(春日町3)	直哉
石澤 村一	(稲荷町3南)	忠一
田村 山	(大黒沢2)	治久
村山 木	(本町6-3)	努
藤身 千乃	(北原)	忠夫
尾身 直輝	(鉢2)	浩和
柳健太	(北原)	恵介
水落 友郎	(旭ヶ丘)	和博
飯塚 向風	(本町7-1)	信男
西川 山	(四日町3)	直也
村山 名衣	(大黒沢1)	秀雄
齊木 由衣	(新宮2)	茂樹
栞 凌太	(山本町2)	政義
堀	(高田町6)	健二

中里支所で11月の3歳児健診を受けた子17人

よい歯の子	住所	保護者
南雲 潤太	(上山)	一浩
藤田 幸雄	(清田山)	利行
瀨野 切太	(東田尻)	俊一
村越 元汰	(芋沢)	香
南雲 洋樹	(上山)	利博
服部 楓	(堀之内)	哲夫
山本 史	(荒屋)	靖
山本 快	(葎沢)	清美
山本 樹	(中里下山)	慶一
	(荒屋)	直樹

松代支所で11月の3歳児健診を受けた子8人

よい歯の子	住所	保護者
西谷 史有	(福島)	弘明
内本 寛隆	(松代)	卓生
山本 聖	(犬伏)	隆
小島 優	(松代)	昭夫
杉野 輪子	(松代)	潤也
中村 寧	(松代)	哲

【福】苗場福祉会職員募集

新規事業に伴い職員を募集します。●募集職種・人数 ①看護職員3人 ②介護職員5人 ③リハビリ職員2人 ④登録ヘルパー3人 ●勤務場所 10日町市・津南町・小千谷市のいずれか ●面接日 随時 ●申込み・問合せ 介護老人保健施設みさと苑管理部(☎765-3400)

第57回10日町雪まつり雪上カーニバル ボランティアスタッフ募集

10日町雪まつり雪上カーニバルの運営をサポートしていただくボランティアスタッフを募集します。●期日 12月17日(金)・18日(土) ※1日のみでも可 ●募集人数 各10人 ●対象 高校生以上 ●活動内容 演出のアシスタ

ントや楽屋のサポートなど ●申込み・問合せ 10日町雪まつり実行委員会事務局(☎757-3100)

第57回10日町雪まつり コミュニティひろば 雪季市出店者募集

10日町雪まつりコミュニティひろば「雪季市」に参加していただける飲食店や物品販売店を募集します。●出店期日 12月17日(金)・18日(土)・19日(日) ●出店場所 コミュニティひろば(10日町高校グラウンド) ●対象 地元・地域の特産物や特産物を使用した食品、郷土料理を1品以上取扱う市民または市内の団体 ●注意事項 ①応募多数の場合は出店内容や販売物内容などにより選考します ②食品を提供する場合は市が行う「臨時食品

福祉 福保

1月の心の健康相談

【松之山】 ●日時 18日(水)午後2時～4時 ●会場 松之山保健センター ●医師 須賀医師(中条第二病院) 【中里】 ●日時 31日(火)午後2時～4時 ●会場 工房なかさと ●医師

税

家屋の取り壊しや異動(相続・売買など)の際は手続きを

●対象 ①家屋の全部または一部を取り壊した人 ②売買・贈与・相続などで異動があった未登記家屋(法務局に登記していない建物) など ●問合せ 税務課家屋資産係(内線119) 支えます あなたの未来を税金が

12月の納税・納付

12月は市・県民税第4期、国民健康保険税第9期及び介護保険料第9期の納付月です。期限内に納めましょう。●問合せ 税務課・保険年金課

その他

1月の休館日

●中央公民館 1日(元日) 3日(火)・毎週月曜日 ●博物館 1日(元日) 4日(水)・10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)

蔵書点検のため情報館と各分室を休館します

情報館と各分室(中里・松代・松之山地域を含むすべての図書室)では、図書などの一斉点検(蔵書点検)を行うため、1月9日(成人の日) 20日(金)は休館します。蔵書点検は、19万4、000点にも及ぶ図書などを1点1点コンピュータで読み取り、返し忘れや行方不明になつているものを探し、蔵書構成の見直しや本棚のリニューアルを行う、大切な仕事です。不自由をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。なお、休館期間中も図書などの返却は受け付けています。情報館は入口脇のブックポストを利用してください。 ●休館期間 1月9日(成人の日) 20日(金) ●問合せ 情報館(☎750-5100) 【証明書の発行ができません】

半壊以上の家屋廃材 運搬・処分費の 無料期限を延長します

中越大震災により半壊以上の認定を受けた家屋の解体・改修などの際の廃材運搬費及び処分費を無料とする期限を12月27日(火)としていました。しかし、まだ解体・改修工事の完了に至らない被災家屋があることや期間延長の要望があることなどから期限を18年3月10日(金)まで延長します。無料とするには承認が必要です。早めに承認申請をしてください。 ●問合せ 環境衛生課(☎752-3924) 困ります！犬のフン公害 降雪時、犬のフンは大変目立ち、人々に不快感を与え、ともに、公衆衛生上も好ましくありません。ルールを守り、責任を持って片付けましょう。 ●問合せ 市民生活課生活環境係(内線157)

年金

国民年金保険料の領収書を保管してください

国民年金の保険料は、社会保険事務所が直接収納管理しています。今年から、保険料控除証明書が送付されるようになりますが、念のため金融機関などで納めた際の領収書を保管し、税の申告(控除)に使用してください。 ●問合せ 新潟社会保険事務局六日町事務所(☎025-770-2211)

1月の献血

全血献血

【10日町】 ●期日 1月6日(金) ●会場と受付時間 榎オスボック午前10時～11時30分、10日町地域振興局午後1時30分～3時30分 ●問合せ 健康支援課地域医療係(内線127)

【市報おわびと訂正】

11月25日号3ページに誤りがありました。国土交通省信濃川河川事務所長の話題提供の中で、今年のサケの遡上数は600尾ではなく、正しくは26尾(60

1月の交通安全キャンペーン

冬道の安全走行

冬道では、降雪や路面の凍結は避けて通れません。また、雪や霧のため、視界も悪くなります。雪道や凍結路を走行するときは、安全な速度と車間距離を保ち、慎重な運転を心がけましょう。

冬道の安全走行

冬道で急の付く運転は危険です。急発進・急ブレーキ・急ハンドルはやめましょう。



年	発生件数	死者数	負傷者数
17年	26 (288)	1 (7)	27 (363)
16年	29 (268)	1 (11)	33 (326)



平成18年度採用 10日町市職員募集 ●募集職種・人数 土木中級・若干名 ●受験資格 学校教育法による大学・短期大学・高等専門学校・専門学校の土木専門課程卒業(卒業見込者含む)で、昭和45年4月2日以降に生まれた人(採用日前日で36歳に達しない人) ●試験方法 【第一次試験：筆記試験】 日時 2月12日(日) 会場 10日町市役所 試験科目 教養・専門・適性試験、作文 ◆申込み・問合せ 総務課人事係(内線212)

●休日救急医

期 日	医療機関名	住 所	電話番号
1 日(祝)	せき整形外科	四日町 2	750-1155
2 日(月)	たかき医院	土市 5	758-2361
3 日(火)	田中外科医院	田中町本通り	752-2403
8 日(日)	庭野医院	寿町 4	752-2711
	津南病院	津南町	765-3161
9 日(祝)	山口医院	下条中央通り	755-2003
15 日(日)	本町クリニック	本町 3	750-1160
	倉俣診療所	芋 川	763-2147
22 日(日)	石川医院	津南町	766-2061

※12月の休日救急医で、大熊内科医院の電話番号が間違っていました。正しくは752-7066です。おわびして訂正します。

●乳幼児健診

※在住する本庁または各支所の会場で受けてください

◎持ち物…母子手帳・問診票、着替えやおむつなど必要なもの、目と耳のアンケート（3歳児健診）
◎対象の期日に受診できなかったときは、住んでいる本庁または各支所へ連絡してください。
◎3歳児健診前に検査セットを送りますので、届かない人は住んでいる本庁または各支所へ連絡してください。
◎十日町・川西会場での1歳6か月児以降の健診は歯科健診があります。歯みがきをしてきてください。

十日町 会場：十日町保健センター

事 業 名	期 日	受付時間	対 象 児
3 歳児健診	12 日(木)	午後1時～1時30分	14年 7 月 生まれの幼児
1歳6か月児健診	18 日(水)	午後1時～1時30分	16年 7 月 生まれの幼児
4 か月児健診	25 日(水)	午後1時～1時30分	17年 9 月 生まれの乳児
2歳6か月児身体測定	11 日(水)	午前9時～9時30分	15年6月・7月 生まれの幼児
10か月児身体測定	25 日(水)	午前9時15分～10時	17年 3 月 生まれの乳児

川西 会場：川西保健センター

事 業 名	期 日	受付時間	対 象 児
4 か月児健診	23 日(月)	午後1時～	17年 8 月・9 月 生まれの乳児
3歳6か月児健診	11 日(水)	1時20分	14年 6 月～9 月 生まれの幼児

乳幼児予防接種・健康相談・休日救急医・乳幼児健診の問合せ

十日町本庁(代表) ☎757-3111	川西支所(健康福祉課直通) ☎768-4957	中里支所(健康福祉課直通) ☎763-3121	松代支所(健康福祉課直通) ☎597-2221	松之山支所(健康福祉課直通) ☎596-2169
------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------

期 日	医療機関名	住 所	電話番号
22 日(日)	中条病院	北 原	757-3018
29 日(日)	小林内科医院	中町	752-7155

●国保診療所 1 月の臨時休診

医療機関名	休 診 日 時
川西診療所	26 日(木)午前
倉俣診療所	27 日(金)午前
松之山診療所	26 日(木)午後・27 日(金)午後

中里 会場：中里総合センター

事 業 名	日 時	対 象 児
4 か月児健診	13 日(金)	17年 8 月・9 月 生まれの乳児
10か月児健診	受付時間 午後1時30分 ～2 時	17年 2 月・3 月 生まれの乳児
1歳6か月児健診		16年 4 月・5 月 生まれの幼児
乳幼児身体測定・健康相談	1 月11 日(水) 午前9時30分～11時 (時間内ならいつでも)	
保育園入園前の乳幼児（希望者）		

松代・松之山

事 業 名	期 日	対 象 児
2 ～5 か月児	11 日(水)	17年 8 月～17年11月 生まれの乳児
8 ～11 か月児		16年12月～17年 3 月 生まれの乳児
乳 児 健 診	会 場…松之山保健センター 受付時間…午後 1 時～ 1 時30分	
事 業 名	期 日	対 象 児
1 歳 6 か月児 ～3 歳児	20 日(金)	16年 4 月～16年 7 月 生まれの幼児
	26 日(木)	15年 4 月～15年 7 月 生まれの幼児
幼 児 健 診	※個人通知をご覧ください 会 場…松代活性化センター 受付時間…午後 1 時～ 1 時30分	14年 4 月～14年 7 月 生まれの幼児

●乳幼児予防接種

予防接種は、住んでいる本庁または各支所内の会場で受けることが基本ですが、別の支所でも接種できます。ただし、ほかの支所で接種する場合は、接種を受けようとする支所へ前日までに必ず連絡してください。
BCGは対象期間が短いので、早めに接種しましょう。

注意事項

- ・「予防接種と子どもの健康」を必ず読んできてください。
- ・受付時間を厳守してください。遅れると接種できないことがあります。
- ・ほかの予防接種との接種間隔に注意してください。
- ・対象年齢を過ぎると医療機関での任意接種（自己費用負担）になります。

持参するもの

- ・母子健康手帳（忘れると接種できません）
- ・予診票 ・体温計

三種混合

対象者…接種日現在で生後 6 か月～7 歳 6 か月未満

松之山支所 健康福祉課 ※松代・松之山支所合同実施

追加（予備日）	12 日(木)
会 場…松之山診療所 受付時間…午後1時～1時45分	

●健康相談 保健師による相談

期 日	会 場	受付時間
16 日(月)・30 日(月)	十日町保健センター	午前9時～11時30分
10 日(火)	新座コミュニティセンター	午前9時～11時30分
	大井田コミュニティセンター	午後1時30分～4時
	川治公民館	午前9時～11時30分
19 日(木)	吉田就業改善センター	午前9時～11時30分
	吉田山谷集会所	午後1時30分～4時
	羽根川荘	午前9時～11時30分
20 日(金)	水沢公民館	午前9時～11時30分
	平成園	午後1時30分～4時
	川西保健センター	午前9時～午後4時30分
23 日(月)	松之山支所	午前8時30分～午後5時
27 日(金)	中条公民館	午前9時～11時30分
	北原集落センター	午後1時30分～4時
	下条公民館	午前9時～11時30分
30 日(月)	上新田自治会館	午後1時30分～4時
	松代支所	午前9時～11時
	中里総合センター	午前9時～11時
※健康手帳のある人はご持参ください。		

BCG

対象者…接種日現在生後 3 か月～6 か月未満

松代支所 健康福祉課 ※松代・松之山支所合同実施

期 日	17 日(火)
対 象 児	17年 7 月19日～10月18日生まれ
受付時間	午後 1 時～ 1 時30分
会 場	松代総合センター

※2月のBCGは、10 日(金) 十日町保健センター、
15 日(水) 中里総合センターで実施します

乳幼児・学童の予防接種実施方法が変わります！
～18年度から集団接種方式が個別接種方式に～

市では18年 4 月から、十日町市中魚沼郡医師会をはじめ、各医療機関のご協力を得て、ポリオワクチン以外の予防接種は、かかりつけの医療機関に保護者が自ら予約し、接種する「個別接種方式」で実施することにしました。
個別接種方式は、これまでの集団接種方式に比べて接種機会が増え、お子さんの体調に合わせた接種が容易になり、かかりつけ医師による的確な判断での接種が可能になるという長所があります。
個別接種を実施する医療機関やそのほかの内容は、詳細が決まりしだい今後の市報などでお知らせします。

●高齢者職業相談

毎週月～金曜日 午前 9 時～午後 5 時

※1 日（元旦）～3 日(火)は休み

会場：高齢者職業相談室（サンクロス十日町内）
おおむね45歳以上が対象です

●定例行政相談

毎月第 2 金曜日 午前10時～午後 3 時

会場：市民相談室・行政相談室

●法律相談 電話で市民生活課市民係へ要予約

毎週木曜日 午後 1 時30分～ 4 時

会場：市民相談室・行政相談室

●定例社会保険・年金相談

毎月第 2 ・第 4 木曜日

午前10時～正午、午後 1 時～ 3 時

会場：クロス10

●心配ごと相談 問合せ 社会福祉協議会☎750-5010

会場：社会福祉協議会（本所・支所）

時間：午後 1 時30分～ 4 時

▽十日町本所	毎週木曜日	※ 5 日を除く
▽松之山支所	17 日(火)	▽松代支所 13 日(金)
▽中里支所	27 日(金)	▽川西支所 24 日(火)

▼北海道と十日町地域の高校生に行った雪に関するアンケートで、「雪が好きかどうか」の項目では、十日町地域（44％）より北海道（48％）の方が高く、「嫌い」は十日町地域（36％）より北海道（21％）が低いという結果が出ました（P15）。どうして？…他の質問項目でほとんど両地域の差がない中で、一つだけ大きく違う点がありました。それは、「雪利用施設を知っている」を見たことがある」で、十日町地域「12％」に対して北海道は「30％」という点です。雪利用の体験の差が影響しているのでしょうか。

▼雪室に米を預けていますが、秋になっても味が落ちません。何事も「実感が大事。雪冷房に取り組む松代高校の夏が楽しみです」

ね。

▼12月としては記録的な豪雪が続いています。降り始めからわずか1週間で家の側に自分の背丈ほどの雪の壁ができてしまいました。12月の第2週末までは、地面を見ることができたのが今では嘘のようです。今冬は、例年になく長い冬になるかもしれません。

▼今年1年を振り返ると、あつという間に過ぎ去ったという感覚とものすごく長かったという感覚の二つがあります。現在の豪雪も含めて、今後いつまでも記憶に残る出来事が多かったためでしょう。平成17年は豪雪で始まり、合併を経て、豪雪で終わった年でした。二年参りの際は、とりあえず、暖冬少雪を祈ろうかと思えます。鬼も笑う話です。

（南）

（わ）



とほかまち 小正月行事

雪が深まる小正月の1月15日前後、その年の豊作を願い厄除けを祈願して各地で行われる伝統行事。中には市の民俗文化財に指定されているものも。今回は地域に伝わる市内の小正月行事を紹介します。集落ごとに違う呼び名や風習にも注目です。



バイトウ

雪原にケヤキとわらで作った小屋を造り、中で村中総出の酒盛りをします。最後にその小屋に火を付け、炎の姿でその年の作柄を占い五穀豊穡を願います。大白倉集落の伝統行事です。

- ▼日時: 1月14日(土)午後8時ころ～(点火9時ころ)
- ▼場所: 大白倉集落センター付近
- ▼問合せ: 川西観光協会 ☎768-4951



賽の神

訪平(あざみひら)集落で行われる賽の神行事は、旧訪平小学校を社屋に構える明後日新聞社(社主＝日比野克彦さん)との合同で行われます。こへび隊をはじめ地域内外から参加者が集い、雪をテーマにしたワークショップなどとともに多彩な催しが企画されています。

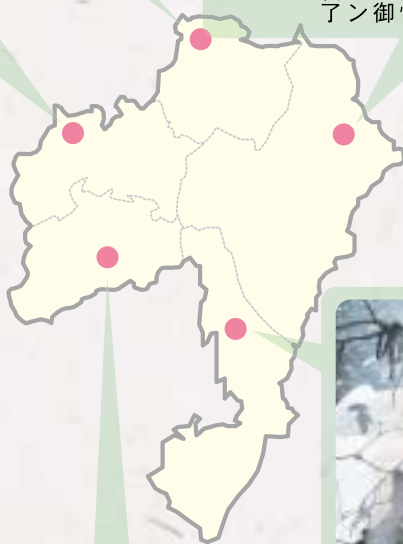
- ▼日時: 1月15日(日)午前10時ころ～
- ▼場所: 訪平
- ▼問合せ: まつだい観光協会 ☎597-3000



ドウラクジン(道楽神)

新水集落の冬の風物詩。厄年の男性は木の道楽神を、女性は竹さおの先につけたノンビロと呼ばれる色紙で作った御幣を、火が放たれた高さ約5m・径約3mのドウラクジンの像にかざし、厄除けを祈願します。一連の火祭りが終了すると、ハネツケエーシが行われます。

- ▼日時: 1月15日(日)午後2時ころ～
- ▼場所: 新水集落の鎮守様境内
- ▼問合せ: 博物館 ☎757-5531



道楽神焼き

五穀豊穡・無病息災などの願いを込めた小正月行事。雪で作った道楽神の像の前に、松やシメ縄、書初めなどを積みあげて火を付けます。この火で作飾りのだんごやもちを焼いて食べるとその年はかぜをひかないともいわれています。

- ▼日時: 1月14日(土)午後2時ころ～
- ▼場所: 白羽毛
- ▼問合せ: 中里支所地域振興課 ☎763-3111



- ▼日時: 1月15日(日)午後2時ころ～
 - ▼場所: 湯本薬師堂
 - ▼問合せ: 松之山観光協会 ☎596-3011
- むこ投げ
若い衆が家からむこを担ぎ出し、高台にある薬師堂から雪の中に投げつける荒っぽくも楽しい行事。江戸時代から天水越に伝わり、今は湯本でも行われています。すみ塗りとともに越後の奇祭の一つです。

